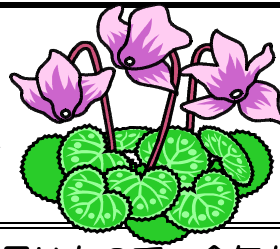


赤

心

第28号



12月

長野市立安茂里小学校



月日の経つのは早いもので、今年も12月の第三週目を迎えました。皆様いかがお過ごしでしょうか。学校では、音楽会を始め様々な行事において、児童の頑張りが表れた二学期が終わろうとしています。

また、昨日から個別懇談会が始まっています。季節がら、だいぶ冷え込んでいます。健康に気をつけて、ご来校いただきますようお願いいたします。

昨年もお伝えしましたが、長野県教育では『研究授業の二学期』とも言われるように、本校でも学習指導の向上や児童の学力向上を願い、数回研究授業を行いました。写真は12月3日に行いました6年2組での研究授業の様子です。

今号には、9月の校長講話にて、学校長が話した内容を掲載しました。お子さんと一緒に読んでいただいたり、お子さんに分かりやすく語っていただいたりすることで、子どもたちはより深く理解してくれるものと考え紹介します。

「本を読んだり勉強をすることが大好き、間違ったことがきらい」

「藤原銀次郎はすごい。彼に大きな仕事を任せよう」

『 藤原銀次郎さん 』

おはようございます。この前の校長講話では、安茂里小学校に関係の深い赤尾善治郎さんについて話しましたが、きょうは、やはりこの安茂里出身で大出世した人を紹介します。写真①

写真① 銀次郎さん90歳



この人です。この人の名前は、藤原銀次郎さんといいます。みんなで言ってみましょう。ぜひ覚えてほしい人の名前です。

この藤原銀次郎さんは、明治二年(1869)今から140年ほど前に、安茂里平柴にこの地域では有名な大地主だったそうですが、その三番目の男の子として生まれました。子どもの頃の銀次郎さんは、とても頭がよく本を読んだり勉強をすることが大好きでした。また、間違ったことがきらいで負けず嫌いでもあったそうです。

昔は、どの家でも長男(一番上のお兄さん)が家の後を継ぐことになっていましたから、末っ子だった銀次郎さんは、どうしても東京の学校で勉強して一旗揚げたいと思っていました。そこで、お父さんに頼んだところ、「お医者になる学校だったらよし」とお許しが出たので、銀次郎さんは、喜び勇んで東京へ行ったんだ。銀次郎さん18歳の時でした。そこで、同じ平柴出身の7歳年上の先輩で鈴木梅四郎さんという人が東京にいたので、そこへ訪ねて行きました。

銀「うめちゃん おら東京へ出てきただ。お医者になる学校へいくんだ」

梅「何?お医者になる。医者なんかやめて俺が行っている学校へ来いよ。それよりも、経済の勉強(お金を扱う)の方がおもしろいぞ、俺の行っている学校には、すごい先生がいるんだ」

と、銀次郎さんは、梅ちゃんに勧められるままに気づいたら梅ちゃんの学校へはいることになってしまいました。そこには、こんな先生がいたのです。写真②

写真②



銀次郎さんは、この先生が教える、慶應義塾という学校へ入ったのです。

この先生は、福澤諭吉先生と言って、ヨーロッパやアメリカなどで勉強して日本に帰り、慶應義塾という学校を創りました。これは、今の慶應義塾大学の前身です。福澤諭吉さんは、明治初めの日本の経済や産業を発展させるために、学問に燃える若者を集めて教えていました。

その教えの中で、銀次郎さんが深く影響を受けた教えに、こんな教えがありました。「銀次郎君 これからの世の中は**独立自尊**だよ」と。難しいね。

きょうは、時間がないのでこの言葉の意味は説明しません。クラスの先生や友達同士でどういう意味か調べたり考え合ったりしてほしいと思います。簡単には答えは、出ないよ。

さて、慶應義塾を卒業した銀次郎さんは、はじめ愛媛県の松山日報という新聞社の記者として就職します。そこで5年ほどがんばった頃、またまた梅四郎さんから連絡が来るんだ。



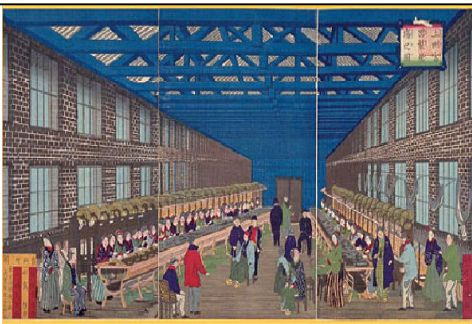
写真③ これは、現在の三井住友銀行東京本店の写真ですが、三井銀行というのは、住友銀行と合併する前から、個人が創った銀行としては、日本で最初のそして、一番の大きい銀行でした。この三井銀行に勤めていた梅四郎さんから「ぎんちゃん。三井銀行の建て直しと大改革をやるからいっしょにやろう」と声がかかりました。

先輩梅四郎さんの頼みじゃ断るわけにはいかない。すぐさま松山日報をやめて三井銀行に入ります。銀次郎さん28歳の時でした。三井銀行に入った銀次郎さんは、滋賀県の大津支店で、一年銀行の仕事の全部を勉強して東京の深川支店の主任という立場で帰ってきます。そこで、今まで誰もやらなかったいろ

ろなアイデアを出して、この深川のお店で扱うお金をどんどん増やして銀行の収入を大きくします。例えば、深川のお店は、金融と言ってお金を貸す仕事しかしていませんでした。ところが、深川の商人たちが、往復2時間もかけて遠くの本店にお金を預けに行く姿を見て、深川支店でもお金を貯金できるようにかえて、「深川支店でもお金を貯金できますよ」というビラ（広告のチラシ）を作ってくれました。当時、銀行では、広告のチラシを配るなんてことは誰もしなかったそうです。すると、商業の町だった深川の商人たちが、「これは便利だ」ということで、みんな深川支店にお金を貯金するようになり、みる間に、深川支店の収入が増えたそうです。この働きをみた三井銀行の重役さんたちが、「藤原銀次郎はすごい。彼に大きな仕事を任せよう」ということになります。

それがこれだ！

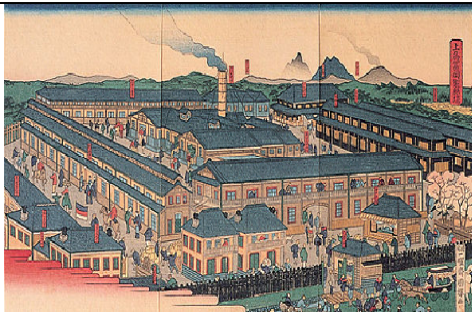
写真④ 富岡製糸場



当時、日本では、国の産業を盛んにしようということで、国営の工場をいくつか造りました。

そのうちの一つで、群馬県に造られた富岡製糸場です。これは、6年生の社会科の教科書や資料集にもこの写真は載っていますが、もう勉強しましたか？きょう教室に戻ったら確かめてみよう。

三井銀行は、日本で一番大きな銀行でお金もたくさんあったから、この工場を国から買い取って工場経営も始めていたんだ。日本は、明治～昭和の時代にかけて、製糸業は、世界一でした。なんと、銀次郎さんをその日本で一番の富岡製糸場の支配人にして、工場経営を任せただ。銀次郎さんまだ30歳。



ここでも、銀次郎さんは工場の生産量を増やすことに成功しました。銀次郎さんが行ったとき、女工さんの給料が、家柄や容貌によって決められていました。「こんなおかしいことがあるか。人は、皆平等なんだ。これからは、仕事の出来高（成績）で支払う」といって、今までの悪い規則を直しました。一生懸命働いて成績が上がれば、自分の給料もあがる。という仕組みにしたのです。これによって、女工さんたちが一生懸命働くようになり、工場の業績もどんどんよくなったそうです。実は、この「人は皆平等」という考えも、慶應義塾の福澤諭吉先生の教えだったんだ。

これから、後も銀次郎さんは国のために活躍するのですが、

時間がきましたので、きょうは、ここまでにします。また、機会があれば続きを話したいと思います。

○読書旬間（12/1～10）が終わりました

～言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かにする読書活動～

今年も「長野おはなしの会「おはなし畑」の方々」や「PTA親子文庫の方々」に支援いただいたり、先生方も読み聞かせを行ったりしました。

PTA親子文庫の方々には、お昼の放送で読み聞かせを行っていただき大好評でした。家庭でも参考にさせていただきたく紹介します。

◇12月1日；佐々木さん「エパミナダス」

エパミナダスは、毎日のように、おぼさんのうちに行きました。するとおぼさんはそのたんびに、「お母さんにおみやげですよ。」と、言って何かくれました。ある日、エパミナダスが…

◇12月2日；柿澤さん「グリーンチ」

「グリーンチはどうやってクリスマスを盗んだか。」ドクター；スースの描くユニークで寓意に富んだファンタスティックなストーリーは世代を越え、子供から大人まで現在も読み継がれています。

◇12月4日；塚田さん「マッチ売りの少女」

〈アンデルセン童話より〉雪の降る大晦日の晩。マッチを売り切るまでは家に帰れない、一本も売れないマッチを抱えた少女。あまりの寒さに、一本、もう一本とマッチを点していくと……。

読書活動は、子どもが、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠くことのできないものであるととらえております。にかんがみ、すべての子どもがあらゆる機会とあらゆる場所において自主的に読書活動を行うことができるよう、積極的にそのための環境の整備が推進されなければならない。

日頃の学習を発表する場として音楽会を開催しました。

心豊かに表現する子どもたちの姿を、保護者の皆さまはどのようにお感じになったでしょうか？当日、ご家庭では、お子さんにどのようにお話しされたでしょうか？

今後も、保護者・地域と協力しながら、児童の成長に取り組んでまいります。ご支援等をよろしくお願いします。

○二学期の研究授業 ～生きる力をはぐくむために、日々授業改善を行っています～

- * 9月19日 5年2組 特別活動 「友達と仲良く遊ぼう～一人ひとりがクラスの一員～」
4年2組 特別活動 「なかよし遊び～ルールを守って楽しく遊ぼう～」
- * 10月 9日 4年1組 理科 「物のあたたまり方」
- * 11月11日 6年1組&1年2組 総合的な学習の時間 「安茂里小ランドを一緒に楽しもう」
5年1組 学級活動 「あなたは、どう思う？」
- * 12月 3日 6年2組 国語 「キーワードを基にした要約」